

主な土壌消毒剤の種類と特性

令和2年5月 JA全農ちば

薬剤名	D－D (DC・テロン)	ドロクロール	ソイリーン	ガスタード微粒剤	トラベックサイド 油剤	キルパー	
ガスの種類	D－D	クロルピクリン	D－D クロルピクリン	M I T C	D－D M I T C	M I T C	
同じグループの 薬剤	※D－D、DC 油剤テロンの成 分・適用は同じ	クロピク80	ダブルストッ パー	バスアミド微粒剤	ディ・トラベック ス油剤	N C S	
ガス抜き	有り						
※10a使用量	15～20L	20～30L (1穴あたり2 ～3ml)	30L	20～30kg	30～40L	60L	前作終了後から播種又は 定植の15日前まで 原液として40～60L/10a
※主な使用場面	主に施設、露地 とも線虫防除に 使用。	主に土壌病害防 除に使用。	線虫と土壌病害 が併発している 場合に使用。	主に土壌病害、苗 床の殺草対策。	線虫と土壌病害が 併発している場合 に使用。	主に土壌病 害、苗床の殺 草対策。	古株枯死対策。 早期に作物が枯れること による病害虫まん延防 止。
使用のポイント	線虫による被害 が大きい場合 は、ネマトリン エース粒剤等を 併用する。	剤特有の刺激臭 が強く、 <u>消毒後 の被覆は必須。 住宅地周辺での 使用を避ける。</u> 高温期はガス化 が早いため、気 温の低い時に作 業を行う。	DDとクロルピ クリンの混合 剤。線虫＋病害 の同時防除が可 能。消毒後の被 覆は必須。住宅 地周辺での使用 を避ける。高温 期はガス化が早 いため、気温の 低い時に作業を 行う。	土壌中の水分によ り分解されてガス 化するため、処理 前に水分調整を行 う。低温では、ガ ス化しにくい。た め露地での使用は注 意を要する。	DDとトラベック サイドの混合剤。 ガスタードなどと 同様に低温期はや やガス化しにく い。	土壌中の水分によ り分解されてガス 化するため、処理 前に水分調整を 行う。液剤 なので水で希 釈する方法も 可能。低温期 はややガス化 しにくい。	作後のベツト内に、液肥 混入器を用いて灌水処理 する。灌水量は原液の 100倍が目安。薬液60L処 理の場合6000Lの水で灌 水する。処理後ベツト・ 作物を片付けガス抜き。

※ 各薬剤使用時には各作物の使用基準(適用作物、使用量等)に従って下さい。

【土壌消毒の効果を上げるには】

- ①被害残渣は、できるだけ圃場外に持ち出す。 ②適度な土壌水分時に薬剤処理。 ③ビニール被覆を行う。クロールピクリン含有剤は必須。
④ガス抜き前にトラクター、ロータリーの泥を落とし、未消毒土の混入を防止。 ⑤未熟な堆肥(未熟有機物)は土壌病害が増加。